

か。鈍痴やなア、八八位知らなんだら、交際出けへんで。まア知らにや仕様が無い、つっこ往かふか』  
 『知らんなア』『フン。そんなら札藏なまごしとくわ。是れ遣ろ、賽や。丁半どふや……知らんか。仕様の無い奴やなア。お前等見たいな甲斐性の無い奴が居る依てに、斯んな二階へ上げられて寝てんならん。ざま見やがれ。お前等に蒲團二帖は勿態無いワイ。一帖宛私に貸せ』二人の蒲團を取て、自分が四帖も着て其儘ゴロツと仰向けになるなり、グーツと高軒で寝て仕舞ひましたが、一番上の作治郎さんは、今夜脱けて出るアテが有るので、中々寝まへん』吉やん、小坊ん……コレ中坊ん……能う寝てよる』ソツと蒲團から這ひ出しまして、物干の出口からゴロ／＼を開けて、物干へ上ります、手摺を越えて、屋根へ降りましたが瓦が冷え切つてムリです、音のせん様にソロ／＼歩いて屋根の端まで来た處で、エヘンと咳拂の合圖を致しますと、下では市助が一兩の金儲やと云ふので、宵から待てよる、ソレ来たちうので、梯子をニュツと突き出しましたので、直ぐ降り様と思ふた處が、誰しも覺えのあることで、寒い時分に寢間から出て、風にあたりますと急に尿てぶすを催ふします、作治郎さんも寒い風に吹かれた處へ冷い瓦を踏むだ物でやすさかい、降りる間の辛抱が出けん、屋根へ踞くぼつて遣てる處へ、此方は中坊の彦三郎さん、ウツ／＼していると何ふやら兄さんが物干から屋根へ降りた様子でおます、可笑い具合ぢやワイと、はね起きて自身もソツと物干から屋根へ降りて見て居ると、エヘンのニュウで梯子が出ました、ハハア兄貴奴豪い事を仕組んでよる、能し。俺しも是れで降りたる。狡い人で兄さん

より先に降りて來ました』誰や、こんな處へ梯子出してるのは、アお前市助や無いか』アツ、貴所は中坊さんだすか』能う氣が利いたナ。大きに憚りさん』若し、そら應對が違ひまつせ。貴所を降ろすのと違ひますがナ』八釜しい云ひな、歸りに土産持て寄たる。兄貴はあとから直ぐに降りて來るけど、何も云ひなや』プイと其儘遊びに往て仕舞ふた。兄さんは何も知らずに其あとへ降りて來まして『ア、市助御苦勞はん、サア約束の金と貰入、是れ取つとき。早ふ歸れたら又此梯子で昇るけど、晩ふなつたら拘かめへんさかい、心配しいなや』プイ。此れも往て仕舞ひました。そんな事は存じませぬ弟の吉松さん、グツスリ寢込むで居りましたが、物干の出口の戸が少し許り開いて居たので、針の穴から棒の風とか申しまして、冷たい奴がヒューツと當ります、フツと眼を醒ました。『アツア（欠伸）……オ、寒む……ア、能ふ寝た……オイ兄貴……コウ中兄……能ふ寝てケツかる……エ、イ何ぢや肩が凝ると思ふたら、仰山蒲團を被せやがつた……怪けつ態たい葬たくその悪い何しやがんネ……併し最ウ何なんどき刻ときやらふ、未だ夜中までは間が有るやらふナ……今頃は花街いんまちの宵よや、あの世界は又別やな……ア彼女おんなどない仕て居よるやろ。アノ往きたいなア……同おんなしうどん屋でも、此邊こゝろの奴とは聲の出る處とこが違ふで……』  
 うーどん——やウ、イ。そーウばイヤウーイ……くーじら汁イ。どじよう汁ウーイ……エ、あの聲聴いた丈けでも、色衛いろゑへ來たなアちウ氣がするで……（河内瓢箪山——戀のウー辻占ア——）  
 お座敷でのお愛嬌……待人炙り出し……かアわちイ。炙り出しイ……アハハ。河内が炙り出せるか